

■開催日時

令和6年5月13日（月） 午後3時00分～午後4時45分

■開催場所

四季の森生涯学習センター 東館 大会議室

■出席者

委員 8名

酒井克典委員長、小山雅充副委員長、森正樹委員、吉良勉委員、山田俊朗委員、
西村好太委員、畑弘恵委員、山本幸雄委員

オブザーバー4名

乳原文正丹波土木事務所所長補佐、清水夏樹農都環境政策官、
古谷重樹地域整備課課長補佐、田中和哉社会教育・文化財課長

事務局等 3名

波部正司観光交流部長、酒井誠商工観光課長、岡佳巳商工観光課係長

■欠席者 3名

雪岡のり子委員、松浦由美委員、西尾雅子委員

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

- (1) 第3回検討委員会の振り返り
事務局 | (資料1に基づき説明)

4. 協議事項

- (1) 桜ビジョンの策定に向けた検討
事務局 | (資料2に基づき基本理念案を説明)

- 酒井委員長　　まず、桜ビジョンを検討していくにあたって最も重要である「①理念」について、ご意見をいただきたい。
- 委員　　5案の中では案4「今年もあえてよかった　桜見守る丹波篠山」が雰囲気が良い。「来年にも会いたい」とつながってもよい。次年度開催される国際博のテーマにある「未来へ」につなげるようなものであってもよいと考える。
- 委員　　前回の提案にあったワクワクという言葉もよいと考えるが、5案の中であれば案3「桜を求心力に、持続可能なまちづくり」がよいと思う。
- 委員　　案4「今年もあえてよかった　桜見守る丹波篠山」。青年部としてはこのような意識を持って桜の手入れをしている。
- 委員　　案1「市民みんなで作るオンリーワンの桜の里」。技術支援や学びなどにより、みんなで作り上げていくイメージでよい。
- 委員　　桜で町おこししているところは全国にたくさんある。主な桜はソメイヨシノ。みんながソメイヨシノで全国一になろうとすると本数を競う。ソメイヨシノがたくさん並んでいるようなところはたくさんあり、丹波篠山市が追いかけていっても仕方がない。丹波篠山市なりの桜の名所をつくるにはどうすればよいか、ということになると、案1「市民みんなで作るオンリーワンの桜の里」になるのではないかと思う。
- 委員　　案1の「オンリーワン」の言葉もよいが、何がオンリーワンなのか浮かんでこない。案3「桜を求心力に、持続可能なまちづくり」がよい。
- 委員　　案1「市民みんなで作るオンリーワンの桜の里」。篠山城の桜はとてもよい。全国的にもお城と桜の観光地は多いが、篠山城の桜はこしかなない。お城と桜に何かをプラスし、それに市民がどのように関わっていくかビジョンで示していければよい。
- 委員　　「丹波篠山」の名称は、全国的にはまだまだ浸透していない。「丹波篠山」を桜のまちと全国的に売り出していくには無理がある。何か特徴がある丹波篠山市の桜として売り出していく方がインパクトがあるのではないか。
- 委員　　案1の最後に「丹波篠山」とつけて、全国的にPRしていくのもよいのではないか。
すべての案で「桜」とカタカナ表記されているが、どの様な意図があるのか。

事務局	市木の指定がカタカナの「サクラ」となっているので、そのようにしている。漢字の「桜」の方が、イメージにあうなどもあればご意見いただきたい。
委員	市木の表記は、数ある桜の種類の総称として「サクラ」とした経緯がある。
委員	樹木医的にはカタカナだが、やさしさや華麗などの桜のイメージから、漢字がふさわしいと感じる人も多いのではないか。
事務局	市民に向けたビジョンなので、「サクラ」の表記がカタカナの場合と漢字の場合、市民としてどちらがイメージしやすいか、聞き取っていただくなどしていただいてもよいと考える。
酒井委員長	案1、案3。中でも「オンリーワン」についての意見が多い。「サクラ」の表記については保留とし、「丹波篠山」らしい桜の里をオンリーワンとして目指していったらどうかということで、案1で進めていければと思うがいかがか。
委員	(異議なし)
酒井委員長	それではその理念に基づき、引き続き検討を進めていく。
事務局	(資料2に基づき目指す将来像以下を説明) 目指す将来像について、前回までの検討を踏まえて考え方や取り組みをグループ分けし、事務局で検討した。目指す将来像は人により様々な考え方があるので、あえて一つに絞ることなく、三つとした。「取組の方針」や「具体的な取り組み(方策)」も前回までの意見を踏まえて取りまとめた。 例としてあげているので、項目や分け方など、広く意見を伺いたい。
委員	目指す将来像の二つ目について、市民が楽しむという要素も入れて、「みんなが生き生きワクワクと過ごすまち」としてはどうか。
委員	ここでの検討は50年、100年先に向けたものであるべきだと考える。桜の木を植えると10年でも開花はするが、50年、100年と咲き続けるように考えていく必要があるのではないか。
委員	50年、100年先に向けたものではあるが、市民に積極的な取り組みを呼びかけていくには遠すぎるのではないか。植え付けから既に年月が経過しているものも多い。それらを10年、20年先につなげていくためにどのように取り組んでいくかを示した方が、イメージが付きやすいと思う。
事務局	ビジョンというと長い期間を想定するものではあるが、この場では50年、

100年先を見据えながら、今後数十年の取り組みを検討していくのがよいと考えている。体系図としては、50年、100年先を見据えた「目指す将来像」の実現に向けて何をしていくのか、具体的に掘り下げたものとしている。

清水政策官

理念で掲げる「オンリーワンの桜の里」について、桜を将来にわたって守っていききたいというのは決まっている。丹波篠山市らしい桜の里を「市民みんなで作る」という部分を「オンリーワン」と考えるということだと思う。「どこかと比べて」や「他にはない」などがつくると、その時点でオンリーワンではない。競争ではなく、市民がオンリーワンだと思えばよい。そのように考えると、市民の心持ちや行動がオンリーワンにつながっていくと思う。

事務局提案のものは、具体的にどのように取り組んでいくかということに重きを置いたものとなっているため、近い将来に向けたものと捉えられているのだと思う。

酒井委員長

10年、20年先だけではなく、50年、100年先も見据えたビジョンとして検討していくべきだと考えている。現実を見据えた短いスパンで取り組んでいくが、目指すところはさらに遠い部分ということで進めていきたい。

桜を将来に引き継いでいくために市民みんなが取り組むことで地域がつながる、そのような新しい地域のありようを目指したオンリーワンのサクラの里をつくっていくためのビジョンとして検討を進めていきたい。

委員

掲げられている項目は「市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里」に当てはまってくるのではないかと。あとはどのように市民が関わっていくのかを検討していく必要がある。

委員

桜を中心として、このまちを世に広めていくのであれば、50年、100年先のまちをどのようにしていくのが重要である。今を生きている我々には、50年、100年先がどのようなになっているかはわからないが、どのようにしていきたいのかをまず決めて、未来の姿を組み立てていった方がよいのではないかと。ビジョンはこのようにやっていきたいというものを取り入れていった方がよい。

委員

1年、2年の近い将来を考えると、取り組みを進めていく組織づくりが必要だと思う。ささやま桜協会の活動は、旧丹南町域が中心であり、その活動が市内全域に広がっているわけではない。一方、今の桜協会の体制でその活動を市内全域に広げられるわけでもない。ビジョンを達成するために、例えば観光など、桜が収益につながるような団体に参加を呼びかけ、新しい組織をつくっていく必要があるのではないかと。

委員

あがっている項目からはオンリーワンが見えてこない。

清水政策官	丹波篠山市らしさを定義して、100年後を目指す大きな設計図を描くという意味でのオンリーワンがある。もう一つ、個人が桜との関わり方を自分事にするというオンリーワンがある。両方の意味が含まれると思う。このような検討委員会の場でなくても、桜についての議論が重ねられ、桜との関わりを自分事とする、そのようなつながりがオンリーワンだとよいのではないか。
委員	桜の手入れが日常で話題になることも少ない。自治会など、地域の人に関心をどのように桜に向けていくか、難しいが考えていかなければいけない。
酒井委員長	地域で健やかに過ごしていく一つ的手段として、桜との関わりをみんなで考えていくことが望ましい形であると認識させていただいた。 事務局で今回出された課題などをまとめていただいて、次回以降の検討につなげていきたい。

5. その他

検討委員会の委員構成について

酒井委員長	策定するビジョンに基づき多くの人に桜に関わってもらうためには、ビジョンを検討するこの場でもできるだけたくさんの人から意見を聞いていく必要があると考えている。特に将来を見据えて若い世代に積極的に参加いただきたいため、今後の検討において委員を増員するなど、事務局で検討いただきたい。
-------	---

今後のスケジュールについて

事務局	(次第「5. その他」に基づき今後のスケジュールを説明)
-----	------------------------------

6. 閉会